

<p align="center">バグレポートの改善に向けた問題事例の調査とアンチパターン化</p>
<p align="center">Anti-pattern, And investigation of problem cases for improving bug report</p>
<p align="center">鈴木 昭吾 近美 克行 近江 久美子 渡辺由希子 sw.WorstPractice@gmail.com バグ票ワーストプラクティス検討プロジェクト</p>
<p>発表要旨：</p> <p>ソフトウェア開発において、ソフトウェアやシステムの品質を確保・向上させるためには、適切なコミュニケーションが必要になる。テスト担当者と開発担当者間でコミュニケーションを行うためのドキュメントの1つとして、バグレポートがある。一方、ソフトウェア開発現場では、バグレポートが適切に利用されないことにより、テスト担当者と開発者の間で適切なコミュニケーションが行えず、システムの品質へ影響を与えたり、情報共有のために余計なコストが掛かったりしている。適切なコミュニケーションのためには、あるべき姿を示したガイドライン、および、問題となりやすい典型例を示したアンチパターンが考えられる。ガイドラインに関しては、オープンソースソフトウェアのバグレポートの記入ガイドラインをはじめとして多くのものが入手できるが、アンチパターンに関する情報は少ないのが現状である。また、アンチパターンがあっても表層的な架空の例にとどまっており、コミュニケーションにおける典型的な問題を取りあげたものは少ない。</p> <p>そこで、本研究では、バグレポートが適切に利用されていない事例の調査結果と、これら事例をパターン化し、アンチパターンとした上での原因や対応案、検討結果を報告する。</p>
<p>キーワード：</p> <p>バグレポート, 改善</p>
<p>想定している聴衆</p> <p>バグレポートを扱っているソフトウェア技術者</p>
<p>発表者の紹介（全角100文字）：</p> <p>メーカ系ソフトウェア会社の品質保証部に所属。主にソフトウェアテスト、レビュー、プロセス改善等に興味を持ち活動している。近年では、特にバグレポートに興味を持ち、有志によるコミュニティを作り、活動を行なっている。</p>

* 副題は不要であれば行ごと削除してください